

学校運営協議会

校名	府立豊島高等学校
校長名	羽根 隆

開催日時	平成30年10月17日(水)15:30～17:30
開催場所	府立豊島高等学校1階 校長室
出席者(委員)	芝田会長、吉田副会長、家島委員、湯川委員、安藤委員
出席者(学校)	羽根校長、福井首席、杉本指導教諭、櫻田事務長
傍聴者	なし
協議資料	平成30年度 学校経営計画 他
備考	

議題等(次第順)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営計画の進捗状況について</li> <li>・第1回授業アンケート結果について</li> <li>・平成31年度教科書採択結果について</li> <li>・その他</li> </ul>	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
<p>○平成30年度学校経営計画及び学校評価の進捗状況について協議した。委員からの主な意見は次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題が多いと言っても、その事が良いとは限らない。学生の主観・意識に影響されやすい。頑張っても評価が低いと、士気が下がる可能性があるため、管理職は気を配って欲しい。</li> <li>・教育計画・目標を立て、自己評価し、学校運営協議会に提示する。キッチリ書き込む事が大事。進捗状況でも文章に書き込んで、共有化し、年度末に向けてどうするのかということを考えるのが大事。</li> <li>・記録がなければ、エビデンスが少ないなど感じる。数値的なものが書かれてあれば、アドバイスしやすい。把握できない事実と感想とを分けて書くことが大事。PREP法に則り、結論(Point)、理由・根拠(Reason)、具体例(Example)、再度結論(Point)の順で組み立てる。具体的なエビデンスを盛り込み、それを踏まえて書けば、分かりやすい。</li> </ul> <p>○第1回授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者として意味のある数字の変化かどうかをt検定で分析してみることも重要。また、点数の低さを教員の能力に帰属するのではなく、教員と生徒との相性、組み合わせ(マッチング)が上手くいっているかどうかの指標として見る視点も必要。アンケート結果の解釈は慎重に行い、結果をフィードバックする際は先生方のモチベーションが下がらないように伝える事も大事。</li> <li>・どこが上手く行って、どこが上手く行っていないのかを把握するのは、管理者としては大事なことである。アドバイザーや分析サポーターの様なものを、費用がかからない形で入れるのはどうか。</li> <li>・大学の場合も、生徒・学生に、これは授業改善のためのアンケートで、良い教育を実践するためのアンケートだと説明する必要がある。それを見る教員も、人格的な評価じゃなくして、授業そのものの、客観的技術のための意見であるとする。どこを改善したら良いのかを学生も認識して書く。先生の方も、こういう事かと思って改善して行くというのが理想的だが難しい。</li> <li>・やる方がきちんと意味を理解していないと悲劇。書く方が意図を分からず書いてしまう悲劇。返ってきたものを読み解く時に誤解をしてしまう悲劇。授業アンケートには3つ落とし穴がある。それをクリア出来る準備をしておかないと、授業アンケート自体の存在を否定するようになる。知識がないから、そういう風に否定をする。生徒に対しても、どういう目的かという事や、どこかの比較を書いて欲しいとか、教示(インストラクション)をしっかりしないと意味のないものになってしまう。先生方にフィードバックする時も、こういう風に対処してくださいと丁寧に説明して返却しないと、誤解したり、そのものを否定することがある。</li> <li>・数値が低いのは、先生ではなく、あなたたち生徒の責任ですよ。学ぶ姿勢が出来ていない結果なんですよということでもある。叱咤激励の意味も込めて、ウチの現状はこうだと、結果を見せても良いのではないかと。授業に対する意識が変わったか等、一部でも良いので生徒に返しても良いのでは。現状として、もう少し頑張りたい、この部分は誇りに思っている等、メッセージを発信しても良いと思う。</li> </ul> <p>○教科書採択結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結果の共有を他教科も含めてするのも、文章の書き方など勉強になるのではないかと。</li> </ul>	

次回の会議日程	
日時	平成31年1月18日(金)15:30～
会場	府立豊島高等学校1階 校長室